

別表第 1 (第 3 条関係)

自動車点検実施要領

(運行前点検実施要領)
(毎月点検実施要領)

西宮市消防局

運行前点検実施要領

点 検 箇 所	点 検 内 容	点 検 要 領
ブ レ ー キ	ブレーキペダルの踏みしろが適当で、ブレーキのききが十分であり、かつ、片ぎきがないこと。	① ペダルを強く踏込んで床板とのすき間を点検する。 ② 試運転走行等で、きき具合、片ぎきの有無を点検する。
	ブレーキの液量が十分であること。	ブレーキ液タンク内の油量が不足していないかを点検する。
	空気圧の上り具合が不良でないこと。	空気圧メーターでエアーの充填状態が適正空気圧にあるかを点検する。
	ブレーキペダルを踏込んで放した場合にブレーキバルブからの排気音が正常であること。	「シュー」という排気音ができるか又は異状な引っ掛かりがないかを点検する。
	駐車ブレーキレバーの引きしろが適当であること。	レバーをいっぱい引いたとき、引きしろが多すぎたり、少なすぎたりしないかを点検する。
タ イ ヤ	タイヤの空気圧が適当であること。	点検ハンマー又はタイヤ接地部のたわみ状態でタイヤの空気が不足していないかを点検する。
	亀裂及び損傷がないこと。	タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検する。
	異常な摩耗がないこと。	タイヤ接地面に極端にすり減っている箇所がないかを点検する。
	金属片、石その他の異物がないこと。	タイヤの接地面や側面にくぎ、石、その他の異物がささったり、かみ込んだりしていないかを点検する。
	溝の深さが十分であること。	タイヤの溝の深さに不足はないかを点検する。

原 動 機	ラジエータ等の冷却装置から水漏れがないこと。	ラジエータ、ラジエータホース等から水漏れがないかを点検する。
	冷却水の量が十分であること。	ラジエータキャップを外し水量を点検するか、又はリザーバタンク内の水量が不足していないかを点検する。
	ファンベルトの張り具合が適当であり、かつ、ファンベルトに損傷がないこと。	ベルトの中央部を手で押して、たわみ量を点検するとともに損傷がないかも点検する。
	エンジンオイルの量が適当であること。	エンジンをかける前にオイルの量がレベルゲージで示された範囲にあるかを点検する。
燃 料 装 置	燃料の量が十分であること。	燃料計により燃料の量が3分の2以上あるかを点検する。
灯 火 装 置 及 び 方 向 指 示 器	点滅具合が不良でなく、かつ、汚れ及び損傷がないこと。	① スイッチを作動させて前照灯、尾灯、番号灯、制動灯、車幅灯などの灯火装置や方向指示器の点灯、点滅具合が不良でないかを点検する。 ② レンズなどに汚れ、損傷がないかを点検する。
後 写 鏡 及 び 反 射 鏡	写影が不良でないこと。	運転席に座って後写鏡及び反射鏡を見て、後写鏡にあっては、後方の写影を、反射鏡にあっては自動車の直前を十分に確認できるかを点検する。
反 射 器 及 び 登 録 番 号 標	反射器に汚れ及び損傷がないこと。	反射器(リフレクタ)に汚れや損傷がないかを点検する。
	登録番号標に汚れ及び損傷がないこと。	自動車登録番号標(ナンバープレート)に汚れや損傷がなく、番号などが明瞭に識別できるかを点検する。
	エアタンクに凝水がないこと。	エアタンクのドレンコックを開けてタンク内に水がたまってないかを点検する。

エ ア タ ン ク	空気圧力が適当であること。	空気圧力が空気圧力計の表示された範囲(正常値)にあるかを点検する。
前日の運行にて異状が認められた箇所	当該箇所に異状がないこと。	前日の運行中に異状を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検する。
サイレン・赤色回転灯	サイレンの作用が不良でないこと。	サイレンを吹鳴して音量などを点検する。
	赤色回転灯の作用が不良でないこと。	スイッチを作動させ、赤色灯の点灯及び回転状態を点検する。
ポ ン プ 装 置	真空ポンプ用オイルの量が十分であること。	真空ポンプオイルタンクの油量を点検する。
	主ポンプ及び真空ポンプの廻り具合が正常であること。	① ポンプレバーが完全に作用するかを点検する。 ② 真空レバー又は真空スイッチが完全に作用するかを点検する。
	真空の度合いが正常であること。	真空ポンプを回転し真空漏れを点検する。
そ の 他	積載器具に異状がないこと。	積載品明細表などと照合して員数を点検するとともに原動機等を有するものにあっては、正常に作動するかを点検する。

(注) 上記点検箇所該当しない箇所のある車両は、運行前点検表のその欄を空白にすること。

毎月点検実施要領

点 検 箇 所	点 検 内 容	点 検 要 領
パワーステアリング 装 置	ベルトの緩みの有無	プーリー間のベルトの中央部を約10kgの力で押したときの、たわみの量が規定の範囲にあるかをスケールなどにより点検する。
	ベルトの損傷の有無	ベルトの全周にわたって、損傷などがいないかを目視により点検する。
	油量の有無	リザーバタンクの油量が規定の範囲にあるかを目視により点検する。
	油漏れの有無	① オイルポンプ、ホース、パイプ及び接続部などから油漏れがないかを目視により点検する。 ② ホースの劣化によるふくらみや亀裂及び損傷がないかを目視により点検する。
か じ 取 り ホ ー ク	損傷の有無	かじ取りホークに損傷、曲りがいないかを目視により点検する。
	ホークスピンドルの取付状況の良否	ホークスピンドルの締付けナットに緩みがないかをスパナなどにより点検する。
ブ レ ー キ ペ ダ ル	ブレーキペダルの遊び	ブレーキペダルを指で軽く抵抗を感じるまで押し、遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどにより点検する。
	踏込んだときの床板とのすき間の良否	ブレーキペダルを強く踏込んで、ペダルと床板とのすき間が規定の範囲にあるかをスケールなどにより点検する。
	ブレーキのきき具合	乾燥した路面を走行してブレーキペダルを踏込んだとき、踏みごたえから、エアの混入がないかを点検する。

駐車ブレーキレバー	引きしろ	ブレーキレバーをいっぱい引いて完全にロックするまでの引きしろが、規定のノッチ数（ラチェットがかみ込む音で確認）の範囲にあるかを点検する。
	ブレーキのきき具合の良否	① 乾燥した急坂の路面で、停止状態が保持できるかを点検する。 ② 坂路のない場合は、低速走行の状態ではブレーキレバーを引き、きき具合を点検する。
ホース及びパイプ	漏れ、損傷及び取付状態の良否	① ホース、パイプ、接続部に液漏れ、損傷がないかを目視などにより点検する。 ② 接続部、クランプに緩みなどがいないかをスパナなどにより点検する。 ③ 走行中の振動などでパイプ、ホースが車体その他の部分との接触のおそれがないかを目視などにより点検する。 ④ ホースの劣化によるふくらみや亀裂及び損傷がないかを目視などにより点検する。
リザーバタンク	液量の適否	① リザーバタンクの液量が規定の範囲にあるかを目視により点検する。 ② リザーバタンク周辺から液漏れがないかを点検する。 ③ 通気孔のある場合には、通気孔に詰りがいないかを目視により点検する。
ブレーキチャンバ	ロッドのストローク	規定の空気圧の状態では補助者にブレーキを作動させ、ロッドのストロークが規定の範囲にあるかをスケールなどにより点検する。
ブレーキドラム及びブレーキシュー	ドラムとライニングとのすき間の良否	① 点検孔のないものは、アジャスタによりを点検する。 ② 点検孔のあるものはシックネスゲージによりすき間を点検する。

ホ イ ー ル	タイヤの空気圧の良否	タイヤゲージを用いて、空気圧が規定値にあるかを点検する。
	タイヤの亀裂及び損傷の有無	タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂、損傷がないかを目視により点検する。
	タイヤの溝の深さ及び異状な摩耗の有無	① タイヤの接地面に設けられているウェアインジケータの表示により点検する。 ② タイヤの接地面の全周にわたり、溝の深さが規定値以上あるかをディプスゲージなどにより点検する。
	タイヤの金属片、石その他の異物の有無	タイヤの接地面の全周と両側面に釘、石その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを目視により点検する。
	ホイールナット及びホイールボルトの緩みの有無	① ホイールナット、ボルトに緩みがないかをホイールナットレンチなどにより点検する。 ② リヤアクスルシャフトの取付けナットボルト緩みがないかを点検する。
	リム、サイドリング及びホイールディスクの損傷の有無	リム、サイドリング及びホイールディスクに損傷、腐食などがいないかを目視により点検する。
ク ラ ッ チ	ペダルの遊びの良否	クラッチペダルを指で軽く抵抗を感じるまで押し、遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどにより点検する。
	クラッチが切れたときの床板とのすき間の良否	アイドリング状態で、駐車ブレーキレバーを十分に引き、クラッチペダルを踏込み、1速の位置に変速した後、ペダルを徐々に離し、クラッチのつながる直前のペダルと床板とのすき間が規定の範囲にあるかを点検する。

	作用の良否	<p>① アイドリング状態で、クラッチペダルを踏込んだとき異音がないか、異常に重くないか、シフトレバーが1速又は後退の位置へ容易に変速できるかを点検する。</p> <p>② クラッチペダルを徐々に離して発進したとき、滑りがなく接続が滑らかであることを点検する。</p>
トランスミッション	油漏れ及び油量の有無	<p>① トランスミッション周辺から油漏れがないかを目視にて点検する。</p> <p>② オートマチックトランスミッションにあっては、オイルクーラー、配管、トランスミッション本体から油漏れがないかを目視などにより点検する。</p> <p>③ フィラプラグを外し、油量が規定のレベルまであるかを指で触れるなどして点検する。</p> <p>④ オートマチック車にあっては、走行後、アイドルリング状態で駐車ブレーキレバーをいっぱい引き、セレクトレバーを規定の位置にして油量が規定の範囲にあるかを、オイルレベルゲージにより点検する。</p>
デファレンシャル	油漏れ及び油量の有無	<p>① デファレンシャル周辺（フロントオイルシール部、デファレンシャルギヤケース取付部、ドレーン及びフィラプラグ部など）から油漏れがないかを目視にて点検する。</p> <p>② フィラプラグを外し、油量が規定のレベルまであるかを指で触れるなどして点検する。</p>

点 火 装 置	点火プラグの状態の良否	<p>① 点火プラグを取外し、電極に汚れ、損傷がないか、また、絶縁碍子に焼損がないか目視により点検する。</p> <p>② ワイヤブラシなどを用いて点火プラグを清掃し、中心電極と側方電極とのすき間が規定の範囲にあるかをプラグギャップゲージなどにより点検する。</p> <p>③ 特殊なプラグ(白金プラグなど)にあつては、自動車製作者が示す方法により行う。</p>
	点火時期の良否	エンジン暖機後、アイドル状態で正常なエンジン回転を保っているかを点検する。
	断続器の状態の良否	<p>① ディストリビュータのキャップを取り外し、コンタクトポイントとブレーカアームの接触面に焼損、突起などが無いかを目視により点検する。 また、ブレーカアームを指で動かして、ブレーカアームのスプリングにへたりにないかを点検する。</p> <p>② コンタクトポイントとブレーカアームの接点のすき間が規定の範囲にあるかをシックネスゲージなどにより点検する。</p> <p>③ フルトランジスタイグナイタのものにあつては、点検を省略する。</p>
バ ッ テ リ ー	液量の有無	バッテリー各槽の電解液量が規定の範囲にあるかを目視により点検する。
電 気 配 線	接続部の緩み及び損傷の有無	<p>① エンジンルーム内などの電気配線の接続部に緩みがないかを手で動かすなどして点検する。</p> <p>② 電気配線に損傷がないか、クランプに緩みがないかを目視などにより点検する。</p>

本 体	かかり具合及び異音の良否	<p>① エンジンが速やかに始動し、円滑に回転するかを点検する。</p> <p>② エンジン始動時に異音がないかを点検する。</p>
	低速及び加速の状態の良否	<p>① エンジンを暖機させた状態で、アイドリングの回転が円滑に続くか、アイドリング時の回転数が規定の範囲にあるかを回転計などで点検する。</p> <p>② エンジンをアイドリングから徐々に加速したときに、アクセルペダルに引っ掛かり、エンジンストップ及びノッキングなどの異状がなく回転が円滑に上昇するかを走行テストなどで点検する。</p>
	排気の状態の良否	エンジンを十分に暖機させた状態で、異状な黒煙などを排出していないかを目視などで点検する。
	エアクリーナエレメントの状態の良否	エレメントを取出し、汚れによる詰りなどがいないかを目視などにより点検する。
	エアクリーナの油の汚れ及び量の有無	エレメントを取出し、オイルが汚れていないか、オイルの量が規定の範囲にあるかを目視により点検する。
潤 滑 装 置	油漏れの有無	<p>① シリンダーヘッドカバー、オイルパン、ドレンプラグなどから油漏れがないかを目視により点検する。</p> <p>② オイルクーラーホースなどに劣化によるふくらみや亀裂及び損傷がないかを点検する。</p>
	油の汚れ及び量の有無	<p>① 平らな場所でエンジンを停止させ、オイルレベルゲージにより油量が目盛りの上限と下限の間にあるかを点検する。</p> <p>② オイルレベルゲージに付着したオイルを手でさわるか、又は布などに付着させ、オイルの汚れ具合を点検する。</p>

燃 料 装 置	燃料漏れの有無	① 燃料タンク、燃料ポンプ、ホース、パイプ、噴射ポンプなどから燃料漏れがないかを目視などにより点検する。 ② 燃料ホースの劣化により亀裂及び損傷がないかを点検する。
冷 却 装 置	水量の良否	① ラジエータキャップを外し、冷却水の量が十分であるかを目視により点検する。 ② リザーバタンク付の車両の場合は、冷却水が規定の範囲にあるかを目視により点検する。
	ファンベルトの緩み及び損傷の有無	① プーリー間のベルトの中央部を手で押したときのたわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどにより点検する。 ② ベルトの全周にわたって損傷がないかを目視により点検する。
灯火装置及び 方向指示器	作用の良否	① ヘッドライト、ブレーキランプ、テールランプなどを作動させ、点灯又は点滅具合が不良でないかを目視などにより点検する。 ② ヘッドライトを壁面などに照射し、明るさや照射方向に異状がないかを点検する。 ③ 方向指示器を左右に作動させ、毎分60回～120回の一定の周期で点滅するかを点検する。 ④ 各ランプのレンズに変色、損傷がないかを目視により点検する。 ⑤ 各ランプの取付に緩みがないかを目視により点検する。
エアコンプレッサー	エアタンクの凝水の有無	エアタンクのドレンコックを開けてタンク内に水がたまってないかを点検する。
	ドアロックの機能の適否	ドアが、ドアキーやインナロックにより確実にロックするかを確認することにより機能を点検する。

車 枠 及 び 車 体	緩み及び損傷の有無	<p>① フレーム、サイドメンバ、クロスメンバなどのリベット、ボルトに緩みがないかをスパナなどにより点検する。</p> <p>② チルト式キャブにあっては、キャブチルトロック装置及びヒンジなどの各部に損傷などがないかを目視などにより点検する。</p>
そ の 他	シャシ各部給油脂状態の良否	<p>① シャシ各部の給油脂の状態が十分であるかを目視などにより点検する。</p> <p>② 自動給油脂式の場合は、自動給油脂装置のスイッチを操作し、パイロットランプの点灯により、給油脂が十分であるかを目視により点検する。</p>
各種コック及びバルブ	開閉具合の適否	<p>① 吸水ボールコック、吐水ボールコック、タンク送水ボールコック、中継ボールコックの開閉操作が容易にできるかを点検する。</p> <p>② 冷却水バルブ、各ドレンバルブの開閉操作が容易にできるかを点検する。</p>
ポ ン プ グ ラ ン ド	作用の良否	ポンプ揚水状態で、各ボールコック及び各バルブが完全に作用するかを点検する。
	グランドパッキンの漏れの適否	ポンプ揚水状態で、放水を伴わず、ポンプ圧力を1MPaとしたとき、グランドのドレン部から排水が滴下するかを目視により点検する。
真 空 ポ ン プ	作用の良否	<p>① 真空ポンプを駆動させ、30秒以内に真空度が-0.085MPaになるかを点検後、真空ポンプを停止させ、エンジンを停止後漏気が30秒で-0.0013MPa以下であることを点検する。</p> <p>② オイルタンクの油量が規定量あるかを目視により点検する。</p>

ポンプ駆動シャフト 及びジョイント部	異音の有無	ポンプレバーを入れ、ポンプ駆動シャフトを回転させた時、シャフト及びジョイント部から異音が発生しないかを点検する。
	緩みの有無	シャフト及びジョイント部に緩みがなく、給油脂の状態が十分であるかを目視により点検する。
逆流防止弁等	各種弁の作用の良否	真空テスト又は放水テストにより逆流防止弁、止水弁、チェックバルブから空気が漏れていなかを点検する。
電磁流量計	作用の良否	放水テスト時、放水量の計算値と流量計の指針に大きな誤差がないかを確認する。
各種計器	作用の良否	圧力計、連成計の指針に振れや大きな誤差がないかを確認する。
水タンク	漏れの有無	タンクドレンバルブを閉めた状態において漏れがないかを目視にて点検する。
各種積載器具	積載状態の良否	走行時に振動等により落下しないよう固定されているかを確認する。
	変形及び損傷の有無	積載品に変形及び損傷がないかを確認する。
	各機能の作用の適否	各積載器具がその用途に応じた機能を維持しているかを点検する。

(注) 上記点検箇所該当しない箇所のある車両は、毎月点検表のその欄を空白にすること。